

第41回 高橋梓帆美さん（東芝研究開発センターメディアAIラボラトリー）

日本心理学会若手の会コラムリレーでは、若手のみなさまに、ご活躍されている領域や普段の生活についてご紹介いただきます。

第41回目は、高橋梓帆美さんにご執筆いただきました。

心理学と機械学習の狭間で

デザインを学んでいた学生時代、心理学的手法を用いて人の感覚や主観を紐解き、人の特性に合ったデザインを提案する研究に取り組んでいました。就職後は、一変して画像認識・機械学習の研究に従事しています。現在の研究では、主に識別問題を取り扱いますが、“どう識別するか”を人が紐解くのではなく、大量のデータから機械に自動的に学習させることを目指しています。人の主観を極力排除することにより、より高い識別能力を有する技術となる一方、人の直感とは合わない結果を出力することも多くあります。この技術を人が心地よく利用するために心理学的な視点が活かせないか、なかなか答えがえられませんが、ぼんやり妄想する日々です。

高橋梓帆美（Shihomi TAKAHASHI）さん

【ご所属】 東芝研究開発センターメディアAIラボラトリー

【ご連絡先】 shihomi.takahashi@toshiba.co.jp